愛媛県

果試ニュース

第8号　平成10年5月

果樹の試験研究は、カンキツの新品種開発、傾斜地カンキツ園の軽労働・省力生産のための栽培技術改善、自然生態系を生かした病害虫防除などを重点的に、現在のところ約40課題に取り組んでいる。品種開発のように長年継続している課題もあるが、多くは3～5年で解決して、新たな課題に更新している。

10年度の新規課題は、カキ果実の日持ち性向上、ユズの早期成園化、ナメクジの防除法、モモの平棚栽培、肥効調節型肥料によるイヨカンの施肥効率向上、ライムの貯蔵技術などで、ほとんどが地域から求められた課題である。

果樹試験場は昭和23年に農事試験場から分離独立して、本年が50年目になる。特にミカン農業の隆盛から生産調整という大きな流れの中で、その時その時の要請に応えて試験研究も多岐にわたって展開してきた。これからも愛媛県の果樹産業の発展に技術的側面から支援すべく、技術開発研究により一層幅広く取り組んでまいりたいと、意を新たにしているところである。

場長　向井　武